やきもの展のご案内

LIXILギャラリーは株式会社LIXILの文化活動としてやきもの展を開催しています。タイルから茶碗まで、やきものは私たちの心豊かな暮らしを彩ります。「生活とアート」をコンセプトに、森　孝一氏（美術評論家・日本陶磁協会常任理事）をアドバイザーに迎えたセレクションです。

伊勢﨑晃一朗展ー成（な）るー

会期：2020年1月23日（木）～2020年3月30日（月）
会場：LIXILギャラリー

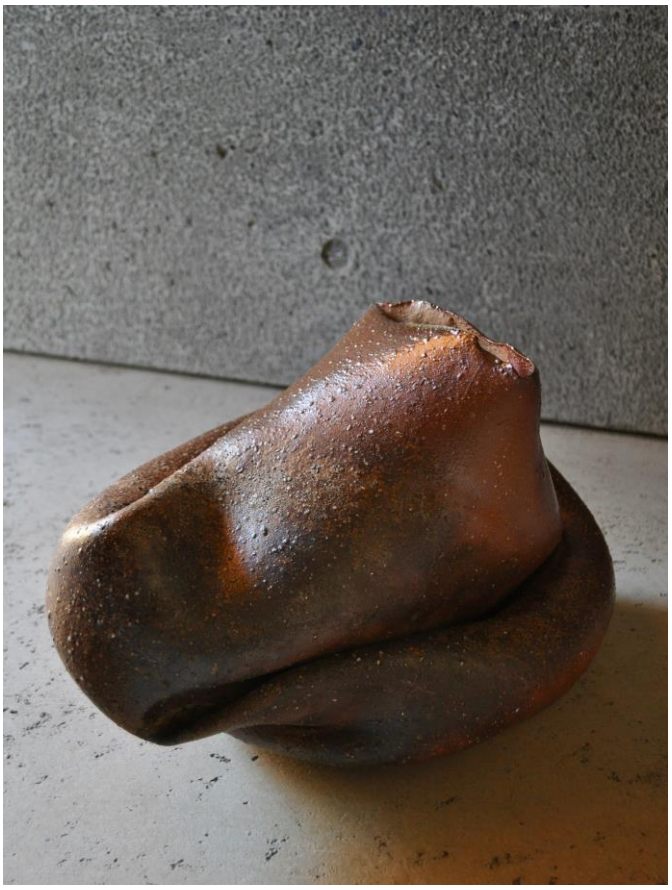
「孕」
2018 年
H350×W330×D300mm

LIXIL GALLERY

www.livingculture.lixil/

LIXIL ギャラリーでは 2020 年 1 月 23 日（木）～2020 年 3 月 30 日（月）の期間、「伊勢﨑晃一朗展ー成(な)るー」を開催します。

伊勢﨑晃一朗氏は備前焼の窯元に生まれ、美術大学で木彫刻を学んだ後、ニューヨーク在住の陶芸家ジェフ・シャピロ氏に師事。その後備前に戻り、独自の造形による茶道具、うつわ、花器などを制作しています。パラミタ陶芸大賞選抜(2011 年)、第 15 回福武文化奨励賞受賞(2014 年)、昨年 2019 年には「The 備前 ―土と炎から生まれる造形美―」(東京国立近代美術館工芸館他巡回)に出品。伝統と現代性を体現した備前焼の若き担い手の一人として注目されています。本展では、「孕(はら)」と名づけられた作品シリーズから約 6 点を展示します



「孕」
2019 年
H260×W370×D240mm

開催概要｜伊勢﨑晃一朗展 ―成るー

会　　期　2020 年 1 月 23 日（木）～2020 年 3 月 30 日（月）
休 館 日　水曜日、2020 年 2 月 23 日（日）
開館時間　10：00～18：00
企画制作　株式会社 LIXIL
会　　場　LIXIL ギャラリー
入 場 料　無料
詳　　細　https://www.livingculture.lixil/topics/gallery/g3-2001/

関連イベント｜アーティスト・トーク

本展のアドバイザーである森孝一氏が伊勢﨑晃一朗氏へインタビュー形式でトークを行います。

開催日時　2020 年 1 月 23 日（木）18：00 ～ 18：30
会　　場　LIXIL:GINZA1F

| 展覧会の見どころ |

本展では伊勢﨑晃一朗氏の作品群の中から、「孕」シリーズ約 6 点を展示します。「孕」シリーズは高さ約 40 ㎝の楕円形の壷形が変形したような造形作品です。自作の土練機から円柱状に絞り出した土の内側を叩いたりひねったりして成形した後に焼成して制作されます。首が傾いたもの、顎を引いたようなもの、肩が出っ張ったり、腰やお腹が膨らみ曲がったりしたものなど、独特の造形が見る者に多様な思念をうながす豊饒なイメージをもつ作品です。

本展のサブタイトルである「成る」と作品タイトルの「孕」は、窯の炎による自然現象や物理現象に留まらず、作品や土のもつ雰囲気が、空間に及ぼす影響について表現しています。

伊勢﨑晃一朗氏は、美術大学で佐藤忠良氏や舟越桂氏に木彫刻を学びました。先生の一匙で、作品のまわりの雰囲気までもが劇的に変わる体験が印象的であったと話します。木彫で使用していた楠も備前の土も、同じ自然界の生命力あふれる素材として伊勢﨑氏を惹きつけています。

| 作者略歴 | 伊勢﨑晃一朗（ISEZAKI Koichiro）

1974　備前市生まれ
1996　東京造形大学彫刻科卒業
1998　ジェフ・シャピロ（ニューヨーク州）に師事
2005　「第 48 回日本伝統工芸中国支部展」岡山放送賞
2008　シンポジュウム“茶陶―造形と意匠にみる現在性”
（ギャラリーヴォイス 多治見・岐阜)
2009　第 26 回田部美術館大賞「茶の湯の造形展」奨励賞（2012、2016）
2010　「第 53 回日本伝統工芸中国支部展」日本工芸会賞
「現代工芸への視点―茶事をめぐって」（東京国立近代美術館工芸館）
2011　「第 54 回日本伝統工芸中国支部展」日本工芸会中国支部長賞
第 6 回パラミタ陶芸大賞展（パラミタミュージアム、三重）
2012　第 5 回岡山県新進美術家育成「I 氏賞」奨励賞
「第 55 回日本伝統工芸中国支部展」教育長賞
2013　「第 56 回日本伝統工芸中国支部展」岡山県知事賞（2015）
イタリア・ファエンツァにて展覧会および講演
2014　第 15 回福武文化奨励賞
2016　「第 59 回日本伝統工芸中国支部展」島根県知事賞
「第 67 回岡山県美術展覧会」山陽新聞社賞（2019）
2019　「The 備前－土と炎から生まれる造形美－」（東京国立近代美術館工芸館・他巡回）
「伊勢﨑晃一朗展　成る」（日本橋三越本店本館 6 階美術特選画廊、東京）